

レタスバーティシリウム萎凋病

日本で初めて発生



2002年ごろから、レタスの芯(しん)が写真のように褐変する症状が発生した。主に淡路島内の古い産地を中心に発生が認められた。原因を究明したところ、バーティシリウム菌による日本で初めての病害であることが判明した。

病気の正体



病原菌バーティシリウムトライコルプスの分生子と分生子柄
(バー200µm)

病原菌バーティシリウムトライコルプスの
耐久体(微小菌核と厚壁孢子)

選抜した農薬による防除効果



写真 左:培地試験、白い菌糸が伸びてないシャーレはヒドロキシイソキサゾールがよく効いている。中:ほ場試験におけるヒドロキシイソキサゾール処理レタス。右:無処理のレタス(発病している)